

平成17年7月 福和伸夫

皆さん、こんにちは。予定では、今回は地震動予測地図をご紹介することになっていましたが、事務局の方から、私の家の話をしなさい、とのご指示を頂きましたので、急遽、話題を変更し、我が家の防災対策の現状について報告させていただきます。



私は、昭和32年2月に、桜山の名古屋市民病院で生まれました。父親は日進育ち、母親は豊田の松平育ちで、何れも江戸より前から住み続けていたようです。このため、一族郎党、県下に住んでいます。これが今、地域の防災に関わる第一の理由です。私自身は、大学に入るまで市内東区で過ごし、その後、父親の実家に引っ越し、大学・大学院時代を日進で過ごしました。そして、昭和56年から10年間、大手建設会社に勤め、東京暮らしをしました。この間に結婚しました。結婚後、6年ほど、子供が生まれず、女房と二人の生活かと思っていたら、会社を辞める直前に女房が妊娠をしました。

バブルの始まった頃、平成3年に名古屋大学に異動しました。住まいは、両親の住む日進の実家をちょっと増築して移り住みました。ただ、子供が生まれるとは思っていなかったため、部屋数も足りず、築約50年の実家を抱え、その後、悩みの種となりました。名古屋大学では、建築学科で6年、先端技術共同研究センターで4年、その後、都市環境学専攻で4年強を過ごしています。

家族は、名古屋に移った1年目に長女が、3年目に長男、6年目に次女が生まれました。両親と同居していたのですが、5年前に父親を亡くしたので、今は6人家族。私は、土日も含めて、殆ど家に居る時間が取れないため、家では全く役に立ちません。それ故に、我が家の防災対策は、もっぱら、女房が中心です。私自身は、地域の防災活動にも全く参加しておらず、地域防災では失格です。その代わりに、日進周辺で行われる防災イベントなどはできる限りお手伝いするようにしています。

さて、我が家がある場所は、日進の里山の麓で、周辺は田圃に囲まれています。庭には時折り蟻が出没し、周りには白鷺や雉が見えます。我が家の敷地は、庭側はやや浅い部分が軟らかいですが、家が建っている場所は相当に堅い地盤のようです。私の代まで家が絶えていないですし、過去帳を見ても、地震で死んだ先祖は居ないので、ひどい地震災害は経験していないようです。庭には、くみ取り式便所や、井戸もあったのですが、潰してしまいました。今考えると、防災上は失敗でした。

家屋の方は、かつては典型的な尾張の田舎屋で、田の字型プランの1階の上に倉庫を兼ねた2階がある入母屋の立派な瓦屋根の家でした。嘘か本当か宮大工が作ったとのことで、釘は一本も使わず、一抱えもある大黒柱の家でした。1階には、壁が一枚もなく、間仕切りは全て襖でしたので、夏は自然の風で快適なのですが、都会育ちの我が夫婦には、プライバシーの無さと、もの凄い数の蚊と蛙の鳴き声に慣れるのは大変でした。その後、この家は、2000年に建て替えることになりました。

家の建て替えのきっかけは、10年前に起きた兵庫県南部地震でした。私もそれまでは、地震について甘く見ていたのですが、被災地を見て考え方が一変しました。何せ我が家は、古い、重い、一階に壁が無い、基礎もくっついていない、接合金物も無い、と無い無い尽くしでした。神戸から戻って、直ぐに耐震診断をし、耐震補強設計もしてみたのですが、手の施しようがない結果でした。神戸のような内陸直下の地震が西日本で発生すると東海・東南海地震が数十年後に発生し、同時に神戸のような地震が頻発する、ことは知っていました。乳飲み子たちを前に、この子たちがこの家で押し潰されてしまうかもしれないと思い、焦りがこみ上げました。家を建て直すしかないのですが、名古屋に戻るときに、なけなしのお金をはたいて、実家を増築したために、蓄えもなく呆然としてしまいました。

で、やむなく3つの行動をすることにしました。一つは、低い家具を沢山買って来て、寝室に沢山置きました。家が潰れたときに、生き延びる空間を確保するためです。当時は、防災ベッドは存在しませんでした。二つ目は、NHK名古屋の番組の中で、ダメな代表的建物として紹介してもらいました。弁解のためです。今、解説委員をされている山崎登さんが名古屋でキャスターをされているときに取材して下さいました。今でも、耐震性の無い建物の代表例として時折テレビ画面に登場します。そして3つ目は、家を建て直すために猛然と貯金を始めることでした。挫折するといけないので、周辺の人たちに5年後に家を建て直すと言明し、質素儉約に努める生活を続けました。

おかげで5年後に、せっせと貯めたお金を頭金に、家を建て直しました。この際には、私自身が実験をして耐震性を確認した鉄骨系のプレハブを採用しました。本当は、免震住宅にしたかったのですが、当時、免震住宅は15人の評定委員で安全性を確認する時代で、私自身が評定委員だったため、免震は断念しました。その代わりに、通常の建物の倍のブレースを入れてもらい、屋根は軽く、各コーナーには壁を配置し、壁のバランスにも気を配りました。建設中は、毎日、図面を抱えて写真を撮りまくり、施工ミスが無いようにチェックを怠りなくしました。これで、まずは一安心でした。

ですが、東海地震の問題が脚光を浴びようになり、またまた心配になりました。注意情報が発令されたりしたら、僕は家族を置いて出かけないといけないように思います。そこで、カーナビ付きのハイブリッド・ワゴン車を購入することにしました。エコノミークラス症候群を心配せずに足を伸ばして寝られ、カーナビで情報収集をし、社内のコンセントから電源がとれます。警戒宣言発令時には、家族をこの車に乗せ、建物が倒れてこない田圃の中の農道に停めておこうと思います。子供たちは、テレビアニメやコンピュータゲームを楽しみながら、東海地震の揺れを待つことになります。地震後は、この車を家の隣に止め、車を発電機にして冷蔵庫や洗濯機などを使います。近所の方々の腐るものを保管することもでき、冷えたビールも楽しめます。周辺には畑も多く、井戸も残っており、庭では焚き火や野糞も可能です。不便な田舎暮らしも、今になって考えると、防災上はお得、と感じます。

水と食料の備蓄については、我が家は、女房も私も飲む米ですから、水割り用の水を大量に買い込んで蓄えています。普段の消費量が膨大なので、水・食料の備蓄・循環も旨く行っています。家具の固定については、5年ほどの間、突っ張り棒でお茶を濁していたのですが、昨年末に、家具転倒実験をしてみてその効果のほどを知り、ゴールデンウィークに慌てて、完全に固定しました。また、子供たちには、2つずつ、笛を持たせています。どれもこれも、楽しみながらやっています。とはいえ、皆が家に居るときに地震が起きるとも限りません。後で後悔しないように、できることから、無理の無い範囲で、楽しみながら普段の生活を改善していこうと思います。